新潟県剣連会報

第　104　号
平成31年１月吉日
発　行
新潟県剣道連盟

事務局　〒950-0916
新潟市中央区米山５丁目1-25
小林ビル４階
TEL025－244－3481
FAX025－244－3482
http://niigata-kenren.com

平成最後の新年を迎えて

一般財団法人 新潟県剣道連盟
会 長　本間 厚太郎

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には平素から何かとご協力を賜っており、改めて御礼を申し上げます。

昨年中の新剣連諸事業は、情勢の変化に伴う諸規程の改正や新規講習会・大会見直し等多岐に渡りましたが、理事会及び評議員会の承認を経て実施してまいりました。

その一方、これらの事業運営において不徹底等のご迷惑をおかけ致しまして、心からお詫び申し上げます。これも小職の能力不足が要因であります。しかし、おかげさまで会員各位・加盟団体等のご協力により、おおむね順調且つ適正な運営がなされたと感謝申し上げます。

事業結果の一例として、年初から豪雪、連日の猛暑、相次ぐ台風襲来・豪雨災害等の異常気象同様に予測不能現象が全国規模大会へ波及したようで、福井国体成年男子が一回戦突破するなど健闘したものの、その前哨戦である北信越国体剣道大会（福井国体予選）では、本国体入賞種目と内外から絶対視されていた成年女子・少年男女とも僅差の二位で出場権を逸がしました。本当に「地力はあっても勝負事は分からないもの」と痛感させられました。いずれにせよ各種大会に出場した選手、監督・コーチ等関係者は、献身的な努力と厳しい稽古を積んで頑張ってくれました。この経験を糧に今後とも精進され、捲土重来を期していただきたいと思います。会員の皆様には、温かく見守っていただければ幸いです。

さて、今年は「平成」という慣れ親しんだ元号も5月から新元号となります。皆様には、それぞれ思い出の多かった30年間と推察されます。

一方、新剣連にとって平成20年代は、まさに激震の時期と言えると思います。それは昨今、全国的組織のスポーツ競技団体のみならず、一部、武道団体にもパワハラ・セクハラを含め多種多様な不祥事案が取り沙汰されて社会問題化したのと同様、平成22年に発覚した多額使途不明金事件の発生であります。その際は会員皆様をはじめ多数の関係者にご迷惑とご心配をおかけしたところであります。

結果的には、関係各位のご支援・ご協力により迅速な事後対応と諸対策（①一部役員に権力・権限集中させない任期等の厳格化②チェック機能の強化③法人化による適性且つ透明性の確保等）を講じて健全な新剣連として現在に至っております。

これら渦中の人達に類似する傾向として、長期役員職在任や立場・肩書き・高段位取得等により、いつのまにか「錯覚」に陥り

○「目標・向上心」→「野心・思惑」
○「意欲」→「欲望・野望」

へ変貌する人が多いように思われます。これらを踏まえて新剣連の引き締めとともに、私ごとで恐縮ですが「体力・気力の低下」はもとより、就任以来賜っている「会長不適格者」とのご忠告を真摯に受け止め、組織への影響がこれ以上及ばないよう身を処したいと改めて年頭に誓いました。幸い新元号月と新剣連役員改選年月が重なります。しっかりとした新体制下でスタートできるよう適任者の選出・推薦を関係各位にお願いしているところであります。

今年も本県の実情と会員の要望に応じた諸対策を推進しなければならないと思っております。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、剣道は〝人間形成の道〟などと唱える前に、社会基盤である地域、職場、家庭と支え合う社会の常識ある一員としての剣道人でありたいものです。会員皆様にとって良い年でありますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

「県立武道館」建設進む！

上越市剣道連盟　久保田幸正

北陸自動車道上越インターチェンジを降り国道18号線を高田方面に向かうとすぐ左手に県立武道館（現在工事中）の大きな建物が見えてくる。この場所は上越市が運動総合公園として整備を進めている一角にあり、近くには上沼道工事が進められている将来的な交通の要衝にあたる。

県立武道館は、数年前に建設地を巡り県内各地で誘致合戦が繰り広げられたが、最終的に新潟県立武道館

を上越の地に建設することが決まった。２０１７年６月に具体的な構想が発表され現在に至る。計画によると２０１９年10月竣工、12月１日供用開始とのことである。現在は工事も順調に進み外周の骨組みがくみ上げられ、小道場一階部分の躯体工事（柱、梁等の骨組み）が進められている。遠目にも今までに無い大きな堂々たる建物となる様子が見てとれて楽しみだ。

　戦国の世に義を貫いた新潟県を代表する武将上杉謙信公の故郷に建つ武道館。武道の方位を重んじ、上越の歴史性を考えて春日山城を表現した山城型武道館のデザインとのこと。無駄を排除したシンプルな競技空間に床輻射冷暖房設備などが取り入れられたり、子供から高齢者に至るまで幅広く便利に使える施設になることと期待が膨らむ。

剣談

剣道よもやま談義、略して

『プラーカ』。いま、スマホでもこのワードで検索すると〝中村クリニック〟とでてきます。

　今回はプラーカ中村クリニックの、中村院長に登場してもらいました。各種大会では必ず上位入賞でお馴染みです。剣道よもやま話です。

竹刀なしの交剣知愛

新潟市剣道連盟　中村　茂樹

　私のクリニックの待合室の片隅に「剣道コーナー」があり自分が出場したトーナメント表や、昇段審査で用いた竹刀が記念に飾ってあります。

　本当は「私は剣道をしています」などと自分から言わないほうがカッコいい。それでもこんな風にするのは、まず自己紹介して患者さんと近い関係になりたいからだ。また剣道を知らない人たちにも、是非この素晴らしい世界を知ってもらいたいからです。

　さて、患者さんたちからの反響はなかなかである。

待合室には賞状やカップなどが置かれている

「院長！私も高校生までやってました。面を取った時（はずした）が気持ちがいいのよねぇ～」という転勤族の子連れママ。

「孫が頑張っています。全日本選手権のテレビ放映も毎年欠かさず見る。速すぎてオレには見えねぇ～」というおじいちゃん。

「剣道ではどんな気持ちで相手と向かい合うのか？」というクレー射撃のもと国体選手など、剣道話を介して色々な相手と心が通う。

　最近は皇宮警察ＳＰで剣道の選手だったという女性患者さんがいた。縁あって新潟市に住み、今は剣道をしていないと言っていたが、スッと伸びた背筋や落ち着いた言葉には、タダモノではないオーラが溢れていた。世の中、どこにすごい人が潜んでいるか分からない。

　また数年前には剣道仲間に声をかけ、待合室でミニコンサートを開いたこともある。Ｕ七段が看板とステージを作り、Ｋ六段がギターでビートルズを弾き語り、Ａ七段はギターだけでなく、話術もプロ並みで、実は主催者の私もヘタな中島みゆきの一曲だけ歌った。観客にはＨ先生も来てくださった。どれもこれも剣道つながりで生まれた愉快な音楽の一夕だった。

　今、剣道をしていなくても、剣道に興味と関心を持って下さっている人たちは私たちの想像以上に多い。剣道の話題をきっかけにそういう人たちと親しくなることは十分ありえる。また剣道仲間たちに剣道以外の特技や人間的魅力を発見し、絆がさらに深まることもある。どちらも竹刀こそ使わないが広い意味での『交剣知愛』であろう。

昨年の県大会個人戦表彰式での中村先生

地域通信①

十日町剣友会・妙高剣道連盟交流二〇周年合同稽古会

　十日町剣友会と妙高剣道連盟の交流合同稽古会が今年で二〇回目を迎えた。２０１８年６月30日、７月１日の一泊二日の日程で、十日町市立田沢小学校の体育館を会場にして行われた。この合同稽古が始まった理由は、20年ほど前に十日町剣友会の根津勝さんが、仕

事の転勤で妙高市（当時は新井市）に転勤したこと。妙高で一緒に剣道の練習を重ねる中で「合同稽古でもやりたいね」となりそれが実現した。例年7月はじめの土日に一泊二日で実施。一年おきに会場を十日町市と妙高市に移して来た。

今回は二〇周年という節目の合同稽古会ということもあり、今までに関係した会員がたくさん楽しめるようにと、早くから声を掛け合って来た。数年前から参加の小千谷剣道会の皆様、多聞会の皆様、そして遠く台湾や富山からの参加者もあり、総勢50人ほどの稽古会となった。

開会の言葉で十日町剣友会の田川正幸会長は、「交剣知愛」の精神でやってきたのがここまで続いた要因だと思う。技術のみならず感謝の気持ちを持ち続けたことが長い歴史につながった。切磋琢磨してこれからも仲良く続けて行きたい」と挨拶された。

初日は日本剣道形と居合演武、そして十日町剣友会の子ども剣士が木刀による剣道の基本を行った。その後、相互の立会や地稽古などを行い、体育館に大きな気合を響かせながら良い汗をたっぷり流した。第二部は、温泉施設に舞台を移し、盛大に懇親会が行われ大いに盛り上がった。剣道談議や1年間の成果、趣味の話などこれもまた楽しみの一つである。剣道をして良い汗を流し、お酒を飲みながら語り合うことができること……剣道を続けて来て良かったと思う時間である。

二日目は、日本剣道形の練習と地稽古などが行われ、お昼前に無事怪我人もなく終了することが出来た。そして閉会式では「来年の二十一回目は妙高で会いましょう。それまでお互いの技量を高め、元気に皆で会いましょう」と誓いあった。こうして自然な形で継続ができるのは、交剣知愛の精神を持ちながら、相互の会員の思いやりの心にあると確信している。

（妙高剣道連盟会長　平井修二）

地域通信②

西蒲区少年剣道防犯教室の開催！

11月24日、新潟市潟東体育館において、西蒲地区等で剣道を学ぶ小・中学生を対象とした防犯・剣道教室を開催しました。

防犯教室では、西蒲警察署の清水防犯係長から「子ども達の身を守るための防犯」や「いじめに立ち向かう勇気」等のお話しを頂きました。

剣道指導教室では、新潟県警察本部教養課から佐藤好美術科師範をはじめ県警特練員の中嶋直人監督、赤塚洋紀コーチ、特練員六名が派遣されました。剣道指導では特練員による気迫と緊張感のある基本稽古と立合いが行われ、静寂な館内でのヒュンと鳴る素早い竹刀の素振りの音とスピード感のある打ち込みに、子ども達の目は一瞬にして変わり、ピリリとした空気となりました。

その後、中嶋監督による素振り、基本技、地稽古が指導され、地稽古では子ども達一人一人の目線に合わせ、親切丁寧な指導が行われました。貴重な稽古を体感でき、子ども達、西蒲連盟共に有意義な時間となりました。ここに警察本部、西蒲警察署に感謝申し上げます。（西蒲剣道連盟会長　杉原芳也）

大会結果報告

その他の大会は新剣連ホームページをご覧下さい

第60回全国教職員剣道大会

とき：2018年8月3日(金)
会場：岸和田市総合体育館

▽団体戦

坂爪優太・市村　学・木立　快
大島弘士・直原　幹

・一回戦
新潟　2（7）－1（6）　高知

・二回戦
新潟　2（3）－1（3）　奈良

・三回戦
新潟　2（2）－3（4）　宮崎

新潟県はベスト16

▽個人戦

・男子個人の部
大澤　一樹（三回戦　惜敗）

・女子個人の部
中島　郁子（一回戦　惜敗）

第13回全日本都道府県対抗少年剣道大会

とき：9月16日(日)
会場：大阪市府民共済スーパーアリーナ（旧舞州アリーナ）

▽小学生の部

監督　濱田　尚
コーチ　内野　葉子　三本　雄樹
選手
先鋒　木村　龍青（安田剣道スポーツ少年団）
次鋒　金澤　心（心武館道場）
中堅　長谷川光希（頸城大養剣道教室）
副将　大竹　捷斗（新潟西剣士会）
大将　大竹　陽向（心武館道場）

予選リーグ
新潟　0（1）―1（2）　岡山
新潟　1（1）―1（1）　長崎
（1敗1引き分けで予選リーグ惜敗）

【観戦記】

練習会場が変更になる等、昨年度同様に台風の影響を受けた今大会でしたが、例年通り無事開催されました。大会では、岡山県と長崎県の三県による予選リーグとなりました。

1試合目は岡山県。先鋒の木村が面を取られて一本負けとなり、厳しいスタートとなった。次鋒の金澤は引き分け。中堅の長谷川は出小手を取られるものの、直ぐに出小手を取り返し引き分けに持ち込む。しかし、副将の大竹、大将の大竹ともに一本が遠く、引き分け。惜敗。

2試合目は長崎戦。先鋒の木村は引き分け。次鋒の金澤は出ばな面で一本を取り、そのまま一本勝ちを収める。中堅の長谷川は引き分けるものの、副将の大竹が面を取られ一勝一敗で大将戦を迎える。大将の大竹は多彩な技で攻め続けるも一本を取ることができず引き分け。この試合一勝一敗で引き分けとなった。この結果新潟県チームは一敗一分けで惜しくも予選リーグ敗退となった。

今年で本県の参加は七回目となりました。結果としては予選リーグ敗退となりましたが対戦した岡山県、長崎県とはどちらの試合も僅差での敗退となり他の都道府県には決して引けを取らず、堂々と闘っている姿に見うけられました。本大会はもちろん、これまで仲間と共に厳しい強化練習に参加し、自らの心と技を鍛え上げたことが、今後のさらなる活躍につながることを願っています。

最後に大会参加に向けご尽力いただいた新潟県剣道連盟の先生方、錬成会でお世話になった道場連盟の皆様、強化練習にご協力いただいた新潟市剣道連盟、新潟市立小針中学校剣道部の皆様、そして保護者の皆様に心より感謝申し上げ報告にかえさせていただきます。

（三本　雄樹）

▽中学生の部

予選リーグ
・新潟　2（6）―2（4）　滋賀
先鋒　臼井ドー―山田
次鋒　本間ココ―古橋
中堅　安部―コ井上
副将　長谷川功　コ―ココ岩崎
大将　長谷川天　コ×メ寺前
・新潟　1（2）―2（4）　長崎
先鋒　臼井メ―本城
次鋒　本間―メメ永井
中堅　安部×大園
副将　長谷川功×山中
大将　長谷川天　メ―メメ下田
（1勝1敗で予選リーグ惜敗）

第57回全日本女子剣道選手権大会

とき：9月23日(日)
会場：ホワイトリング（長野市真島総合スポーツアリーナ）

（新潟）　延長　（福岡）
小川梨々香　―　メ糸山　亜美
一回戦惜敗

（福岡）　延長　（新潟）
松本　智香メコ―　メ小川萌々香
一回戦惜敗

姉妹揃っての出場

第73回福井国民体育大会

▽成年男子一回戦
新潟　3（6）―1（4）　鳥取
先鋒　坂爪　―ドメ斎江
次鋒　西野メッ―コ川端
中堅　磴　メ―乗本
副将　南　メドー石上
大将　直原　メ―メ阿部

▽成年男子二回戦
新潟　2（4）―3（5）　岩手
先鋒　坂爪メコ―　久保田
次鋒　西野―メメ菅野
中堅　磴　ド―桜井
副将　南　メ―メメ青木
大将　直原　―メ下川
二回戦惜敗

第66回全日本剣道選手権大会

とき：2018年11月3日（祝）
会場：日本武道館

一回戦
（新潟・錬士六段）　（群馬・六段）
赤塚洋紀コ―　福田竜介
（延長）

国体メンバーとコーチ陣

二回戦

赤塚洋紀　―　メ　山田凌平

（北海道・四段）

（延　長）

全中で3位

2018年、男子中学生で素晴らしい活躍をした選手がいます。

柏崎で開催の県大会7月、男子個人戦優勝、大将で出場の団体は惜しくも準優勝。続いて8月に行われた石川県で開催の北信越大会で男子個人戦優勝、団体は準優勝。そしてその後、岡山県で開催の第48回全国中学校剣道大会男子個人戦では二回戦から登場、4人全てに延長戦で制し、オール面で勝ちあがった。圧巻は個人優勝した熊本の鮫島雅貴選手（九州学院中）に面を先行し、残り時間数秒、終了間近に小手を返され、共に一本一本で渡り合い延長の末、最後小手に屈したものの、全中3位。

上越は直江津東中学校三年、長谷川大雅選手だ。

延長を制して勝つというのは並大抵ではないはず。諦めず粘り強さと自分を信じる力が不可欠。そして何よりもスタミナが無いと成し得ない。早速寄稿をお願いしました。

大会から学んだこと

直江津東中学校三年　長谷川大雅

私は、県大会、北信越大会、全国大会で優勝目指して頑張ってきました。私はこの三つの大会を終えて学んだことが三つあります。

一つ目は「仲間」の大切さです。私は中学から剣道を始めた仲間や小学校から共に頑張ってきた仲間がいます。この三つの大会で良い成績を残せたのも仲間がいたからだと思います。一緒に厳しい練習をしたり、時には一緒に泣いたり、笑ったり、そういう仲間のためにも勝ちたいという気持ちが膨らんでこれらの大会で勝つことができたと思っています。

二つ目は「練習」です。剣道は一人でするものではありません。剣道は相手がいます。一緒に練習している仲間から自分の悪いところや、いい所を指摘してもらい、その言われた事を意識して取り組んできました。練習はキツイし、頭を使ったり、一回の練習で正直とても疲れます。でも剣道はやればやる分だけ強くなれます。そしてそこに「上手くなろう！」とか「前より良くなろう！」と思い奮い立たせるだけで大きく変われると思います。こういう気持ちを持つことで強くなれると思いました。

三つ目は「感謝」です。どんなに自分一人で頑張っても限界があると思います。そういう時に力になるのは先生であったり、仲間だったり支えてくれるお父さん、お母さんだったりします。先生からの教えは自分を強くする一つの大きな「鍵」です。先生から角度を変えて色々教えて頂いたり稽古をつけてもらったりすることは決して当たり前ではありません。ですから、教えてくださる事一つ一つは感謝して耳を傾けることが大切だと思いました。初めに書いたように剣道は、一人でするものではありません。相手をしてくれる仲間に感謝したり、好きな剣道を応援してくれる、お父さん、お母さんに感謝することが大切だと改めて思いました。

最後に私は、仲間をみて思ったことがあります。それは初心者でも強くなろうという気持ち、また、休まず稽古を続ける気持ちだったり、一つ一つ一生懸命に日々取り組むことができれば、先を行く経験者にも追いつけるんだと思いました。自分もその気持ちをこれからも大切にしようと思います。

このような経験を得て次こそは日本一になれるよう頑張ります。

表彰後の長谷川君

剣道図書紹介

山本甲一著
「剣道大臣」（津島書房）

新剣連相談役、山本甲一こと五十嵐安夫さんによる本です。五十嵐さんは、関東学生選手権大会準優勝（早大）の経歴を持ち現在（株）原信副社長としてご多忙の中、執筆活動を続けられています。

戦後、剣道の復活に情熱を傾けた先輩方の足跡を知ることにより、剣道に対するいとおしさがなお一層増すことと思います。また全日本剣道連盟初代事務局長、渡辺敏雄（早大師範）一代記「一つの戦後剣道史」も是非ご一読ください。

（加藤　治）

『剣道大臣　笹森順造と撓（しない）競技』発刊に寄せて

山本　甲一（五十嵐安夫）

「剣道がなくなる！」太平洋戦争後の昭和20年代、剣道は消滅の危機に直面しました。敗戦後日本を占領した連合国軍（進駐軍）による禁止です。まず学校での剣道が全面禁止され、学校外であっても

個人が自分で自発的にする時を除き、集団で剣道することが禁止されました。

進駐軍は、日本人の精神形成に大きな力を持つ剣道を抹殺してしまおうという方針であったといわれています。武道を統制していた大日本武徳会という団体が強制的に解散させられ、日本中から剣道を支える組織が消えました。

ところがこれに対し、次の時代もわが国の遺産として剣道を残していかねばならない、剣道という人間育成のためのすぐれた武道は子や孫にも伝えたいと、剣道を復活し存続させる活動をはじめた人たちがいました。

その代表的なリーダーであったのが笹森順造（国務大臣）であり、新田宗雄、木村篤太郎、野田孝、宮田正男、柴田万策といった人たちでありました。また、あたらしく剣道を普及させ統制する組織づくりにとりかかったのが渡邉敏雄でありました。

彼らは粘り強く進駐軍と交渉を続け剣道の抹殺は回避しますが、進駐軍に「剣道と武道という名称は使ってはならない」という絶対条件があったため、スポーツとして「撓（しない）競技」を創設します。

この撓競技は学校での採用が認められて全国に広まり、各地に撓競技連盟が設立されます。国体にも参加します。その一方、全日本撓競技ができた三ヵ月後に朝鮮戦争が勃発し、日本も独立が早まります。昭和27年日本は独立国家として剣道もできるようになり、同年秋に全日本剣道連盟が誕生しました。そののち剣道と撓競技はいわば合体する形で統一連盟となり剣道として普及します。

六、七年間存続しただけの撓競技でしたが千金の存在でした。今そんな危機があったことや、剣道を残すために家庭も仕事も放り出して活動した人がいたことなど、想像もできません。このまま時がたてば語り伝えることもできません。

私はたまたま、渡邉敏雄に直接指導を受け、また笹森順造は大学剣道部の大先輩という関係で直接声をきいていたことから、何とかこうした人々と業績を書き残したいと思い、笹森順造を中心に手もとにある資料を整理し、期日を再確認し『剣道大臣　笹森順造と撓競技』としてまとめあげました。

本県の中野八十二や佐藤毅といった方々も普及の陣頭に立っていた撓競技というものを知っていただければ幸いです。

（文中敬称略）

撓競技正装と試合前に練習に興じる女子選手（『剣道大臣』口絵より）

編集後記

「努力無きところに実力無し」中学の一つ上の先輩が放った言葉。「縁は切れるものだ。しかし自分から切るものではない」「あいさつは人より先に自分から！」高校の恩師の言葉。「剣道は、昔がどうだったではなく、今がどうかなんだよ」剣道から遠ざかり、やる気のない自分に日本一の先生からかけられた言葉。今にして思えば自分にとっての大事な人生の指針▼朝ドラを紐解くと１９６１年「娘と私」という東京が舞台のドラマからスタートしている。全般的に朝ドラは主人公の半生・生涯を中心に、それをとりまく家族や家庭を描いたホームドラマの体裁が殆どであり主人公は女性が多い▼現在はちょうど99作目「まんぷく」。平成最後に99作目とは偶然なのだろうが、なかなか面白い。なにかにつけ威厳を唱える「私は武士の娘！」と松坂恵子扮する「鈴」の言葉。そして娘の福子と萬平。インスタントラーメンを生み出した日清食品の創始者・安藤百福（ももふく）さんとその妻・仁子（まさこ）さんがモデルとなっている。萬平の「人のために役に立つ仕事を」と意気込む姿につい応援したくなる。人生大逆転の成功物語が楽しみ▼役に立つといえば昨年大きな注目を集めたスーパーボランティア・尾畠春夫さん。行方不明の二歳児を発見し今なお被災地に足を運ぶ。南三陸ではがれきの中から思い出の写真などを見つけ被災者に渡す。65歳から本格的に活動を開始したという。たくさんの避難者がいてぎゅうぎゅう詰めの体育館で身動きできないにもかかわらず一言も文句を言わない同じ日本人。「酒なんかくらってる場合じゃないと思ったんです」の言葉が胸に強く強く刺さる。

（還暦　ぶしし）

原稿募集

広報委員会では、地域通信・短信のコーナーの原稿を募集しています。

支部同士での合宿交流や稽古会、練習試合、地域に根ざした伝統の大会など、活動状況などをお送り下さい。

新潟県剣道連盟のＱＲコードです。ご利用ください。